

事例集と【Co-MaMe】による情報の共有化

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
病弱班長 土屋 忠之

現在、病弱・身体虚弱教育を担っている特別支援学校及び特別支援学級の児童生徒の病類では、精神疾患及び心身症が最も多くなっており、支援方法等を検討し、整理することはとても重要となっています。また精神疾患及び心身症のある児童生徒の中には発達障害の二次的障害や、不登校等の適応面や行動面に困難のあるケースが含まれ、小・中学校や高等学校等においても支援が必要になっています。そのような中、この「精神疾患等のこころの病気のある児童生徒の指導と支援の事例集」（以下、事例集）の第1号が平成23年度に「事例を収集蓄積しながら、分析や考察を加えて、そのエッセンスを明確にし、共有できる知見やモデルとして教育現場へ還元していく」（平成23年度事例集の「事例集作成にあつて」より）という方針のもと発行されています。その方針はその後受け継がれ、平成29年度には事例集Ⅳが発行されています。本研究所病弱班は、これら全ての編集に協力をさせていただき、今回の事例集Ⅴ（以下、本事例集）の編集にも協力させていただくことができました。

ところで本事例集はこれまでの方針を受け継ぎながらもこれまでとは大きく異なる点があります。それは事例ごとに異なっていた実態把握や支援方法について、全ての共通した方向性にて実施した点です。また共通した方向性による支援を行った後の児童生徒の変容も記載されています。これは先ほど紹介した「エッセンスを明確にし、共有できる知見やモデルとして教育現場へ還元していく」という方針をさらに進めたものだとも考えられます。このようなことから、精神疾患及び心身症のある児童生徒への支援について、理解や活用がしやすくなったと同時に、教員間や学校間、そして地域間での情報共有がさらにしやすくなったと感じております。

これも本事例集の編集していただいた会長の沼口明夫校長先生（札幌市立山の手養護学校校長）をはじめとする全国病弱虚弱教育研究連盟心身症等教育研究委員会の方々のご努力によるものだと感じ、大変感謝しております。

本事例集の全ての事例に共通して行った実態把握や支援方法には、本研究所の研究成果である【Co-MaMe】（こまめ）を活用していただき、副題にもその名称を載せていただきました。具体的に活用していただいた部分は、各事例の中の「①教育的ニーズ」と「④教育的支援・配慮」となりますが、紙面の関係でCo-MaMeについて詳しく説明をすることは難しいため、さらに知りたい方はこちらの文献をご覧ください。

- ・研究成果報告書サマリー集 【平成30年度終了課題】 P 9～15 (令和元年5月発行)
<http://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/2613>
- ・季刊 特別支援教育 No.76 令和元年冬.P52～53 (文部科学省著作、東洋館出版社発行)

【Co-MaMe】について

本研究所病弱班では、平成28年度に特別支援学校（病弱）の教員を対象に調査を行い、精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的ニーズ6領域40項目を明らかにしました。平成29～30年度には、その教育的ニーズをもとに特別支援学校（病弱）での具体的な支援・配慮を集約、整理・分析し、新たな支援方法を提案しました。この新たな実態把握・支援方法を「連続性のある多相的多階層支援：Continuous Multiphase and Multistage educational support」

【Co-MaMe】（こまめ）としました。このCo-MaMeの考え方をもち、児童生徒の実態把握のための「アセスメントシート」及び支援のための「支援・配慮のイメージ図」を開発し、対象児童生徒について複数の教職員で実態把握を行い、支援方法を協議することで、共通理解のもと支援が行えるようにしました。現在、本研究所病弱班では、このCo-MaMeの活用方法の研修会を様々な地域で実施しており、令和2年中にはCo-MaMeのガイドを発行する予定です。